



Week End / End Game

展覧会の制作過程とその背景の思考について

田村友一郎 (アーティスト) | 服部浩之 (キュレーター)

アーティスト田村友一郎による個展《試論：栄光と終末、もしくはその週末 / Week End》が栃木県の小山市立車屋美術館で開催されました。

本アーカイブ研究会では、田村友一郎とこの展覧会をゲストキュレーターとして企画した服部浩之が、展覧会の制作過程や実施意図などを紹介します。アーティストやキュレーターが如何に思考し、現在という時代を生きているか、それぞれの観点を交えながらお話いただきます。

“バブル期から約 30 年、そして東日本大震災から 5 年以上が経過した現在の都市や、その生活の現状を改めて考えるというところから、展覧会はスタートしました。はじめて美術館を訪問した際に、美術館の公用車となっていた日産グロリアに着目した田村は、これまで自身が度々言及してきた「栄光」へとつながる手がかりを見出しました。そこから、ある個人の栄光に着目し、都市の状況や人々の生活の背後にある社会の現状を捉えようと試みました。作品は、美術館だけでなく市内の複数の場所にも挿入され、それらをリンクさせる独自の仕組みの構築、さらにウェブサイトへの展開など、展覧会は複数のレイヤーが重なる立体的な構造を成しています。それは都市そのものの複雑な現状を再体験するようなものでもあり、一地方都市において実際に生活する人物や具体的な出来事から、より大きな普遍的な諸問題を描出することを試んでいます。

また、このグロリアをきっかけにして、同時期に開催される日産アートアワードでは《栄光と終焉、もしくはその終演 / End Game》というタイトルを冠した作品への展開も行われました。ふたつの作品に直接的なつながりはありませんが、ほぼ同時期に性格の異なる関東のふたつの都市で作品が同時に公開されることで、何かしら特異な事象が生まれていることは確かです。

展覧会という規定された枠組みを超えて、作品／プロジェクトを展開する田村の作品がどのような思考と過程を経てつくられたのか、車屋美術館での展覧会を企画した服部の企画意図なども含めて、その制作の裏側を紹介したいと思います。”

2018

1 / 11 [木]

17:30-19:30

京都市立芸術大学芸術資源研究センター
参加費無料 (事前予約不要)